

キャンパスに1万本の灯



被災地に笑顔と元気を届けたいと龍谷大学生400人が準備

宗門関係の龍谷大学（赤松徹真学長）の学生組織・学友会は10月2日、東日本大震災復興支援としてチャリティーイベント「がくほうさい楽友祭2011 スマイル Smile×Smile=ハappiness」を京都市伏見区の深草学舎で開いた。

東北物産展やオリジナルデザインTシャツ「チャリT」販売のほか、アーティストのライブや全国トップクラスの実力を誇る吹奏楽部による演奏会などが行われ、学生や市民5000人が触れ合いの中で復興支援への思いを寄せ合った。

1日夕の「前夜祭 灯〜ともしび」では、被災地へのメッセージカードを付けたロウソクなど1万本を灯すキヤンドルナイトが行われ、夕暮れのキャンパスには「命」や「Smile」など光の文字が浮かび上がった（写真）。

メッセージは近隣の小・中学校や龍谷大付属平安高校に呼びかけ、生徒ら3000人から寄せられたもの。「日本がひとつになって頑張りましょう」の言葉で思いを寄せた山口望美さんと木元梨絵さん（いずれも同区・藤森中

2年）は温かいロウソクの灯を見つめながら、「震災から半年以上経って、だんだん震災への意識が薄れてきていると感じていた。言葉や行動に移すことで気持ちを確認することは大切。みんなで心をつなげて、大変なことをいっぱい抱えている東北の皆さんに思いが届けば」と話していた。メッセージは冊子にまとめられ、被災地の学校や市役所などに送られる。

同イベントは、体育や文化、宗教系などのサークル代表者らが集まり、自分たちにできることで被災した学友や被災地に笑顔と元気を届けたいと企画。2日間で延べ400人がスタッフに加わった。

代表を務めた中央執行委員長の近藤舞さん（経営4年）は「継続的な支援のためには多くの力が必要。地域の方にもご協力いただき、学生の元気を集結したイベントができた」と話していた。

期間中に寄せられた義援金やチャリティーの売上げ約60万円は日本赤十字社を通じて被災地に届けられる。